

漢方には未病という考え方がありません。漢方書にこんな一節があります。

「聖人は已病を治さずして未病を治す。已乱を治さずして未乱を治すとは此れを此れ謂うなり。」

夫れ病に已に成りて後にこれを薬し。乱に成りて後にこれを治すのは譬うれば猶湯に井を察し、蘭に錐を鑿るがごとし。亦た晩からずや。」

(道理に明るい人は、病気になる前から治療するのではなく、まだ病いにならぬうちに予防する。国家を治めるのも同じ。騒乱が起つてしまつたら治める方法を研究するのはなく、騒ぎが起きる前に未然にそれを防ぐのである。)

病気が既に進んでしまつたら、薬が何とかしようとして騒動が起つたら、何とか平定しようとするのは、口が渴いてから井戸を掘ることと同じくよう何もの……お判に停すべきのとはあるまいか)

これは私の大好きな漢方の古典『黄帝内経素問』という書物にある一節です。

漢方は予防医学とも言われます。自分のからだの体質・環境に合った漢方薬の心づいてみると、力をもひきにくくほたり胃腸がよく、何となくよく眠れるようになると実感される方もおられます。

先日NHKテレビで補中益気湯、十全大補湯、人参養榮湯が紹介されていましたが、各人の体質に合ったものをお選び下さい。ご相談にものります。

院長

⑧『黄帝内経素問』による養生法やコトをめぐるといふ本は、同じような勉強会もして居る方々の内合はせ下さい。